

衣服の着脱が困難な子どもの 衣服の問題点とリフォームの実態

—年齢区分による比較—

やまだ ゆ か こ
山田由佳子

衣服の着脱が困難な子どもの衣服の問題点とリフォームの実態を把握し、求められる衣服リフォームについて明らかとするため、調査会社に登録している日本全国の18歳以下の子どもをもつ保護者を対象にweb調査を行った。有効回答者は649人である。その結果、衣服の問題点として全年齢区分で「障がいにあった衣服が売っていない、売っていても高い」との不満が6割を超えており、問題総合点は年齢が高くなると低くなる傾向がみられた。リフォーム経験は、他の人にやってもらったものも含めて年齢が高いと経験が低いことがわかった。カニューレバンドは年齢が上がるとバンドの購入者が減り、自作者が増える傾向がみられた。胃ろうにおける困りごとは「ボディ着用時はズボンまで脱がさなくてはいけない」ことであり、高校生でも45%の人が挙げていることからボディの前開きの必要性が全年齢で認められた。

キーワード：障がいのある子ども、年齢区分、衣服の問題点、リフォーム

I はじめに

障がい児（者）の衣服については特に肢体不自由児（者）の障がいにあった衣服が既製服に無いという問題点が多く指摘されており、それに対してそれぞれの障がいに合わせた衣服の開発やボランティア等による衣服リフォームの報告など、多くの研究^{1)~6)}がみられるが、その多くは熟練した製作者がオーダーメイドの形でリフォーム又は製作を行うものが多く、保護者が自宅で簡単に行うリフォームの実態は明らかにされていない。

筆者は、衣服の着脱が困難と考えられる肢体不自由児に着目し、2019年に大阪府下の2校の特別支援学校に通う小学部から高等部までの児童生徒の保護者を対象にアンケート調査を行った⁷⁾。その結果、実際にリフォームを行ったことがある人は半数程度であることを明らかにした。また、障がいのある児童生徒の衣服リフォームの中でも前開きリフォームを簡単に行う方法について確立することが課題の一つであると結論付けた。

しかし、これらの結果は有効回答者61人によるものであり、一般的な傾向であると推測するには人数が少なすぎる点が問題であったことから、2022年に調査会社に登録している日本全国の18歳以下の障がいにより衣服の着脱が困難な子どもをもつ保護者にアンケート調査を行い、未就学児の実態について、リフォーム経験者は6割程度であり、既報に比べてやや多い傾向がある事を明らかにした⁸⁾。既報⁷⁾においては人数が少なすぎて明らかにできなかった気管切開、胃ろう等医療的ケアを行っている未就学児も3割存在し、衣服のみならずカニューレバンド等の小物製作や胃ろう漏れ対策についてもその対応の必要性が示唆された。

そこで、本報では、前報⁸⁾において同時にアンケート調査を行った、小学生、中学生、高校生と、前報での未就学児を含めた、年齢による衣服のリフォームや気管切開等医療的ケアの実態、及び、必要とされる衣服のリフォーム内容の違いについて明らかにすることを目的とする。

Ⅱ 研究方法

前報⁸⁾に記載の通り、令和4年11月9日～11月10日にかけて、調査会社に登録している日本全国の18歳以下の子どもをもつ保護者約7万人を対象に、調査会社を通じて調査を依頼した。スクリーニング質問により、子どもの身体に障害があり、子ども自身での衣服の着脱が困難で、回答者自身が子どもの着替えの介助を行っている692人（有効回答者649人）より回答を得た。又、子どもの年齢が未就学、小学生、中学生、高校生のどの年齢区分にあたるかを尋ねた。この際、実際に所属、登校しているかは問わないこととした。年齢区分の内訳を表1に示す。アンケートにおける倫理的配慮については大阪教育大学倫理委員会の承認を得た（承認番号22086）。アンケートの内容は前報⁸⁾と同一である。今回の報告では、前報⁸⁾にて報告を行った未就学児のデータを再掲し、小学生、中学生、高校生と比較を行うことにより、子どもの年齢による衣服リフォーム等の違いについて検討を行うことを目的とした。

表1 分析対象の子どもの年齢区分

年齢区分	人数（人）
未就学	171
小学生	327
中学生	108
高校生	43
総数	649

Ⅲ 結果および考察

障がいのあるお子さんの衣服で困っていることについて、11項目を挙げ、「そう思う」、「ややそう思う」、「あまりそう思わない」、「そう思わない」の4段階で評価してもらった。「そう思う」「ややそう思う」を合わせた値のみを用いて、年齢区分ごとの人数を母数とした割合を算出し、全年齢で比較した結果を図1に示す。全体の平均で多い順に並べた結果、「障がいに合った衣服は通信販売しかない、高いので困る」の項目が最も多く、全ての年齢で6割を超えていることがわかった。次いで「障がいに合った衣服が売っていない」、「締め付けがきつすぎ、ゆるすぎではな

「わからない」の順となっており、既製服について困っている実態が明らかとなった。特に高校生では障がいにあった衣服がないことに対して困っている人が共に7割を超えていることがわかった。又、全体として小学生において6割を超える項目が8項目にものぼり、他の年齢区分よりも多い傾向がみられた。小学生は母数も324人と区分の中でも母数が最も大きく、衣服に対して困っている人が多いのではないかと推察される。

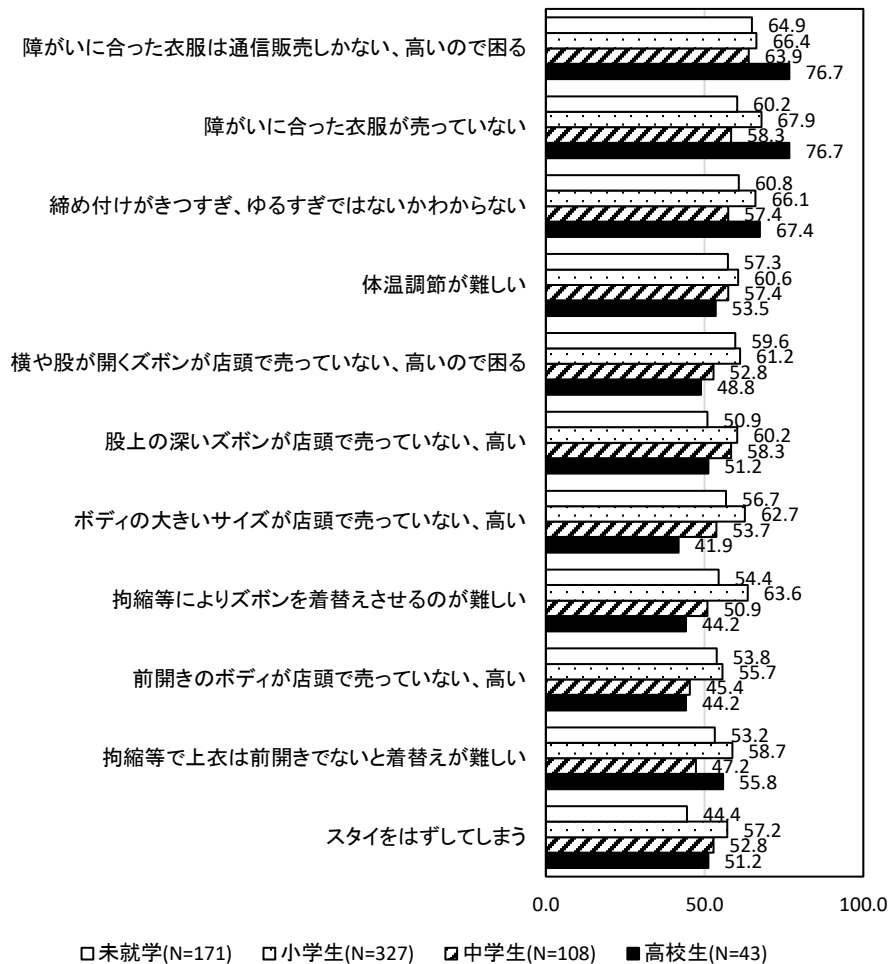


図1 衣服で困っていること

更に、衣服について困っているかどうか4段階で尋ねた11項目すべてを個人ごとに合計し、衣服の問題総合点として以後検討することとした。「そう思う」に3点、「ややそう思う」に2点、「あまりそう思わない」に1点を加え、「そう思わない」は0点とした。衣服問題総合点が高いほど衣服に困っていることを表している。総合点の各年齢区分の平均を図2に示す。やや小学生に得点が高く、中学生、高校生と年齢が高くなると総合点が低くなる傾向がみられたが、分散分析の結果($F=1.98$)有意な差は認められなかった。

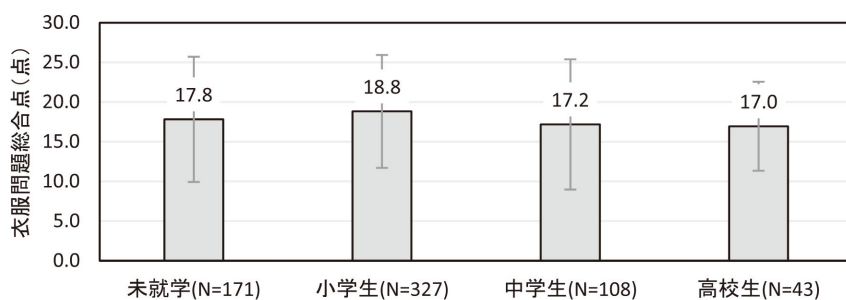


図2 衣服問題総合点の平均値の比較

お子さんの衣服を作成、またはリフォームしたことがあるか、複数回答で尋ねた結果を「自分でしたことのみある」「自分でしたことも、他の人にやってもらったこともある」「他の人にやってもらったことのみある」「作成もリフォームもしたことがない」に分類し、年齢区分ごとに図3に示す。

「自分でしたことのみある」、「自分でしたことも他の人にやってもらったこともある」人は未就学、小学生が多く6割近くを占めたが、中学生、高校生と年齢が上がるにつれて少なくなる傾向がみられた。自分ではやっていないが他の人にやってもらったことだけがある人を含めると、未就学で75.5%、小学生で84.0%、中学生81.0%、高校生65.9%となり、高校生は作成もリフォームもしたことが無い人が他の区分に比べて高い傾向がみられた。衣服の困りごとが多かった小学生は、リフォーム経験者も多い傾向がある事がわかった。以後、自分または他の人にやってもらって衣服の作成またはリフォームをしたことがある人をリフォーム経験有、衣服の作成もリフォームもしたことがない人をリフォーム経験無と称することとする。年齢区分と、リフォーム経験の有無で χ^2 乗検定を行ったところ、有意な差($\chi^2=10.58, df=3, p<0.05$)が認められ、年齢区分によってリフォーム経験が異なる事が明らかとなった。

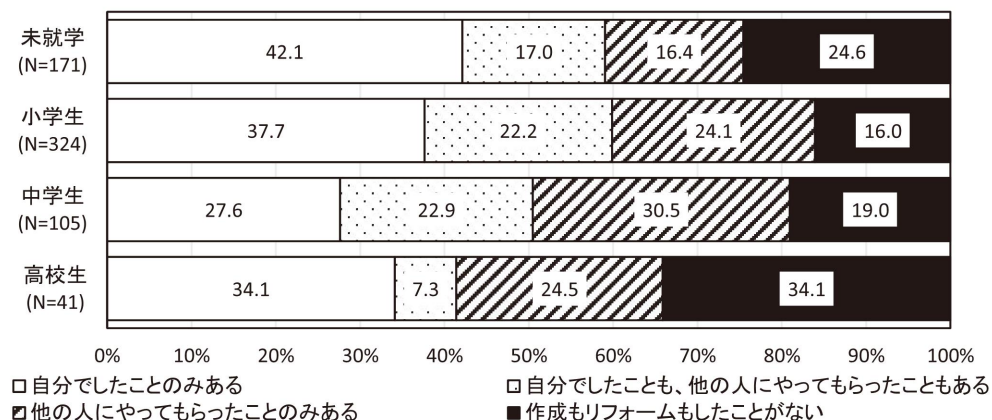


図3 衣服の作成またはリフォームの有無

リフォーム経験別に、衣服問題総合点をみると（図4）、全ての年齢区分でリフォーム経験のある人の方が、無い人に比べて問題総合点が高い傾向がみられた。

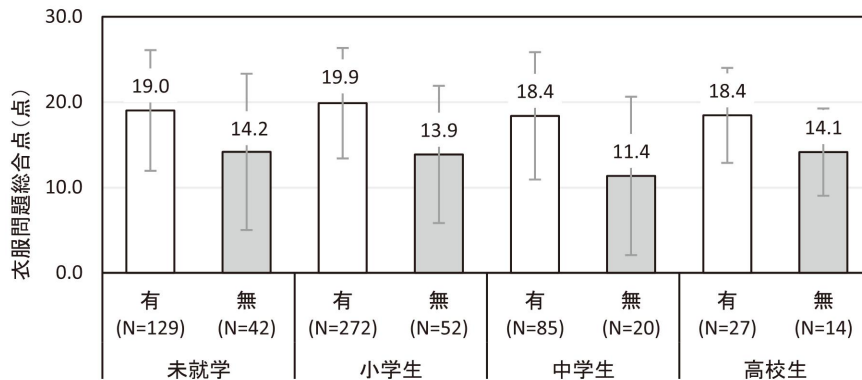


図4 リフォーム経験別にみた衣服問題総合点

また、衣服を作成またはリフォームした理由を複数回答で尋ねた結果を図5に示す。

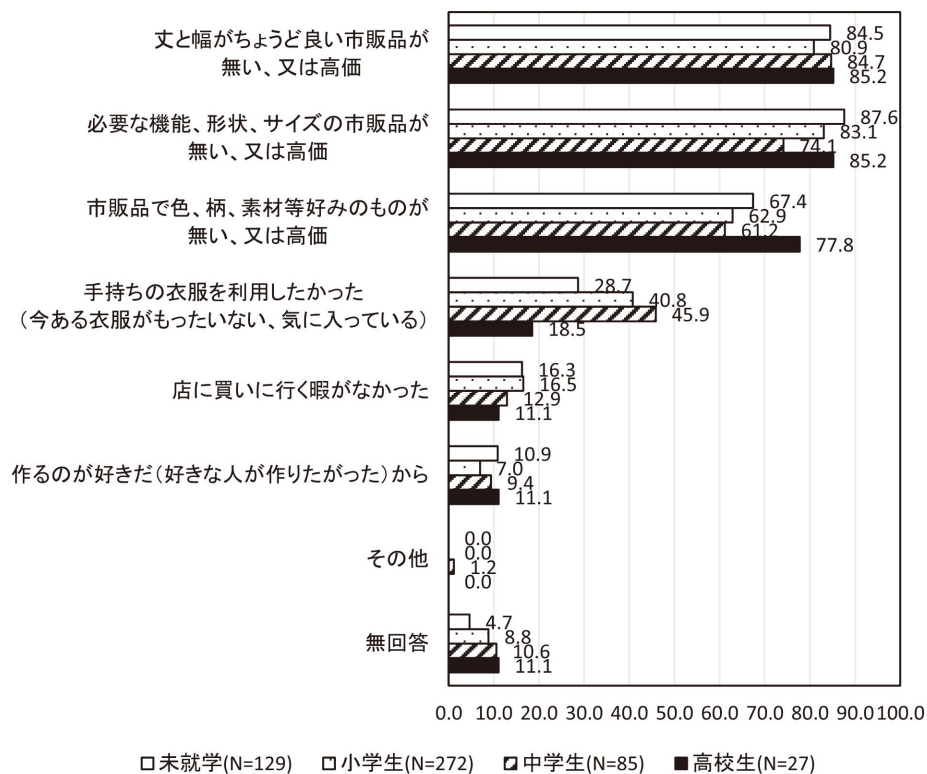


図5 衣服の作成またはリフォームの理由（複数回答）

全体で最も多かった理由は、「丈と幅がちょうど良い市販品が無い、又は高価」であり、全ての年齢区分で8割を超える結果となった。次いで「必要な機能、形状、サイズの市販品がない、又は高価」がほとんどの年齢区分で8割を超えることがわかった。また、「市販品で色、柄、素材等好みのものがない、又は高価」と答えた人が高校生に多く、反対に、「手持ちの服を利用しなかった」については、高校生は2割以下であることがわかった。手持ちの服の利用については未就学、小学生、中学生と年齢区分があがるにつれて割合が上がっており、成長によりこれまで着ていた服が着られないなどリフォームが必要となる理由が考えられるが、高校になると下がる理由が、本人の好みの変化やリフォームでは間に合わない成長の大きさなど今回の調査ではわからなかった。今回高校生の対象者が少なかった為、N数を増やして検討することが望まれる。

もし、自分で衣服を作成、またはリフォームしたいと思ったとき、妨げになるものは何か、複数回答で尋ねた結果をリフォーム経験別に表2に示す。リフォーム経験のある人は全体として「時間、余裕が無い」「ミシンや道具がない」を多く挙げており、特に未就学児と高校生で割合が高い傾向がみられた。一方で、「裁縫が上手く出来ない」と答えた人は小学生に多く、衣服に困っているが技術に自信がない様子が伺えた。リフォーム経験が無い人は、「やり方がわからない」と答えた人に小学生が多い傾向がみられた。又、「妨げとなるものはない」と答えている割合が中学生では8割となっており、中学生のリフォーム経験の無い人が衣服問題総合点が最も低い傾向があったこととあわせて考えると、リフォームが必要となるほどの困りごとが無かった可能性が考えられる。

表2 作成またはリフォームの妨げになるもの（複数回答）

	リフォーム経験有				リフォーム経験無			
	未就学 (N=129)	小学生 (N=272)	中学生 (N=85)	高校生 (N=27)	未就学 (N=42)	小学生 (N=52)	中学生 (N=20)	高校生 (N=14)
時間、余裕がない	55.0	46.3	49.4	63.0	54.8	61.5	60.0	64.3
ミシンや道具がない	50.4	46.7	51.8	59.3	35.7	38.5	25.0	7.1
裁縫が上手く出来ない	52.7	55.5	49.4	44.4	50.0	50.0	40.0	57.1
場所がない	38.8	43.4	42.4	51.9	7.1	7.7	20.0	7.1
やり方がわからない	43.4	34.2	41.2	33.3	57.1	71.2	35.0	64.3
お金がない	19.4	20.6	24.7	14.8	4.8	9.6	0.0	7.1
教えてくれる人がいない	19.4	18.0	16.5	14.8	9.5	9.6	20.0	14.3
面倒くさい	17.1	24.3	16.5	3.7	28.6	26.9	20.0	42.9
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
妨げとなるものはない	1.6	9.9	0.0	3.7	47.6	17.3	80.0	35.7
無回答	2.3	1.1	8.2	11.1	4.8	7.7	0.0	0.0

リフォーム等以外でも衣服について相談したり、教えてもらったりしたことがある人は誰かを複数回答で尋ねた結果を、リフォーム経験別に図6に示す。

リフォーム経験が有る人の相談等の相手として施設等の友人・知人が小学生以外他の年齢区分では最も多かった。小学生の最も多い相談相手は施設等の職員で、他の年齢区分でも多くみられた。未就学は施設以外の友人知人の割合が他の年齢区分より高く、中学生は訪問看護師、医師看

護師、手芸店の店員が他の年齢区分より高い傾向がみられた。

リフォーム経験がない人は全年齢区分で、誰にも相談したことがない人が半数を超える結果となった。全体にリフォーム経験がある人に比べると相談したことがある割合も低く、リフォーム経験のない未就学の人は医師、看護師に相談している人はいなかった。一方で、高校生においては施設等の友人・知人を挙げた人が4割を超え、他の年齢区分と大きく異なる結果となった。

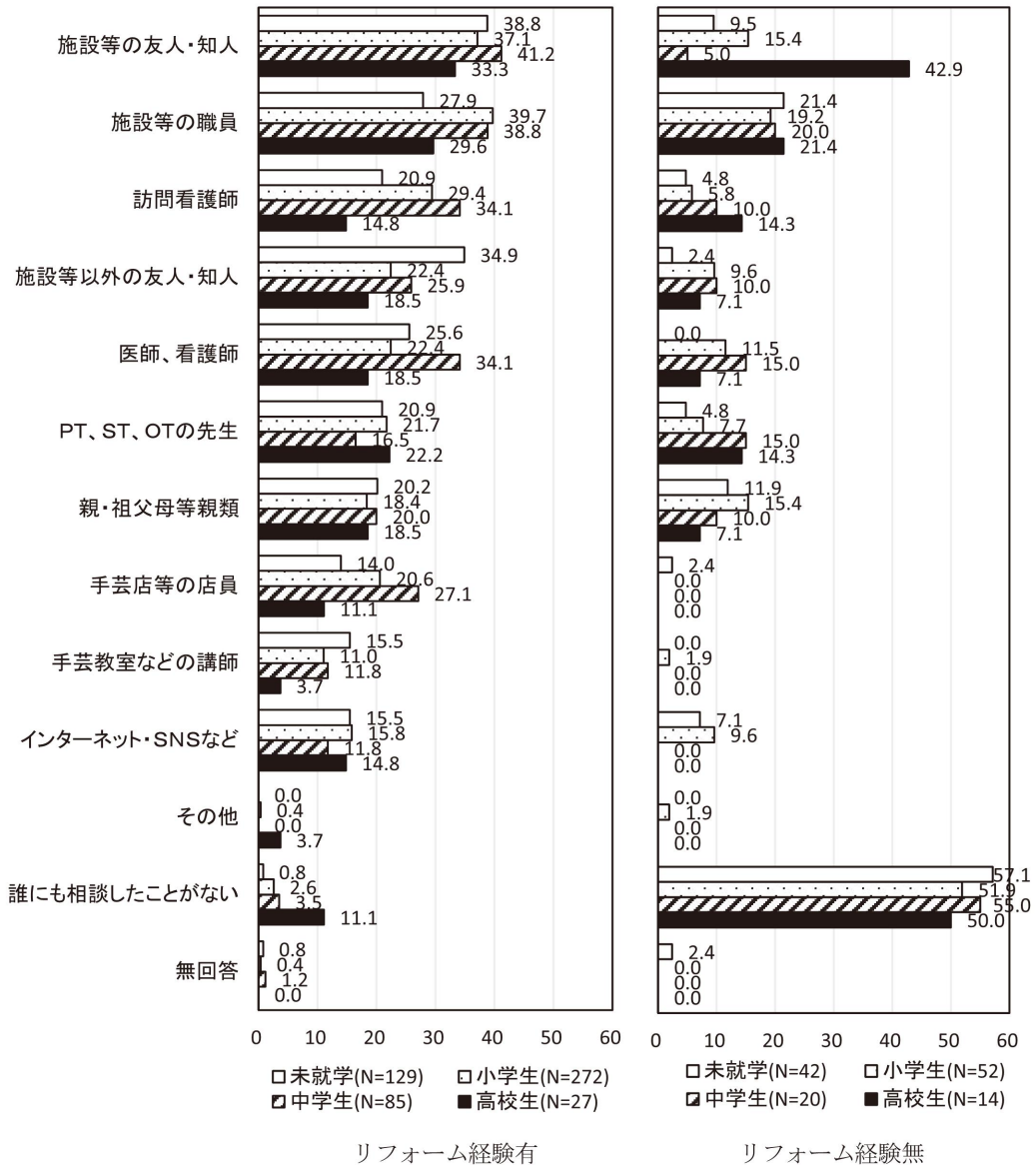


図6 衣服について相談等をしたことがある人（複数回答）

次に、気管切開の有無について尋ねた結果を図7に、カニューレバンドの入手方法を複数回答で尋ねた結果を図8に示す。気管切開をしている子どもは未就学、小学生、中学生で約3割いることがわかった。高校生は約2割であった。その内、カニューレバンドを購入している人は未就学児で75.0%、次いで小学生が74.8%、中学生59.5%、高校生では50.0%と年齢が上がるにつれて購入者は減少する傾向がみられた。自作している人は反対に年齢が上がるにつれて増える傾向がみられ、中学生、高校生では約6割が自作している事がわかった。

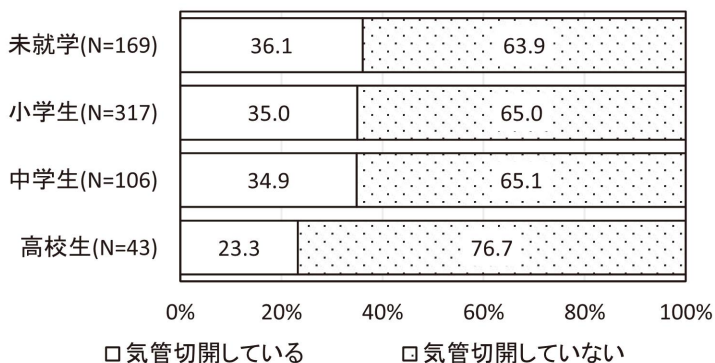


図7 気管切開の有無

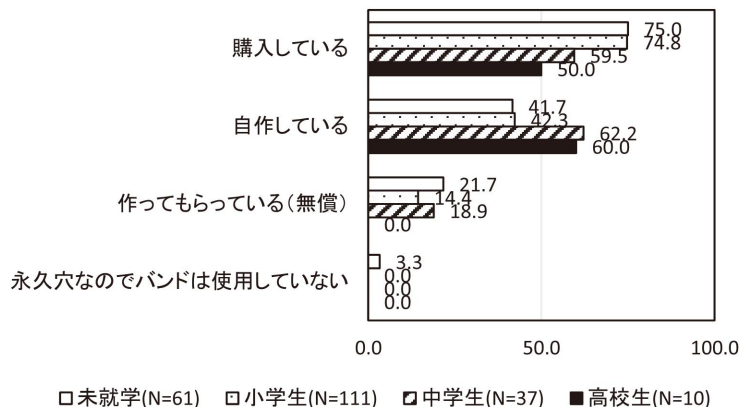


図8 カニューレバンドの入手方法

そこで、自作している、作ってもらっている（無償）と答えた人に、カニューレバンドの作り方を誰に教わったか、または誰に作ってもらっているかを複数回答で尋ねた結果を図9に示す。全年齢の平均値順に並べた結果、最も多いのは「施設等の友人知人」で、年齢が低いほど多い結果となった。次いで「訪問看護師」、「施設等の職員」「医師・看護師」と続くが、特に低い年齢で「訪問看護師」「医師・看護師」が多い傾向にあるのは気管切開をした病院でそのまま医師、看護師の方に教えてもらったり、普段様々な家庭に訪問し、情報を多く持つと考えられる訪問看護師の方から他の人はどうしているかを教えてもらったりする機会が多いのではないかと推察す

る。今後、カニューレバンドの簡単な作り方等の検討を行う場合は気管切開を行う小児科との連携が必要と考えられる。

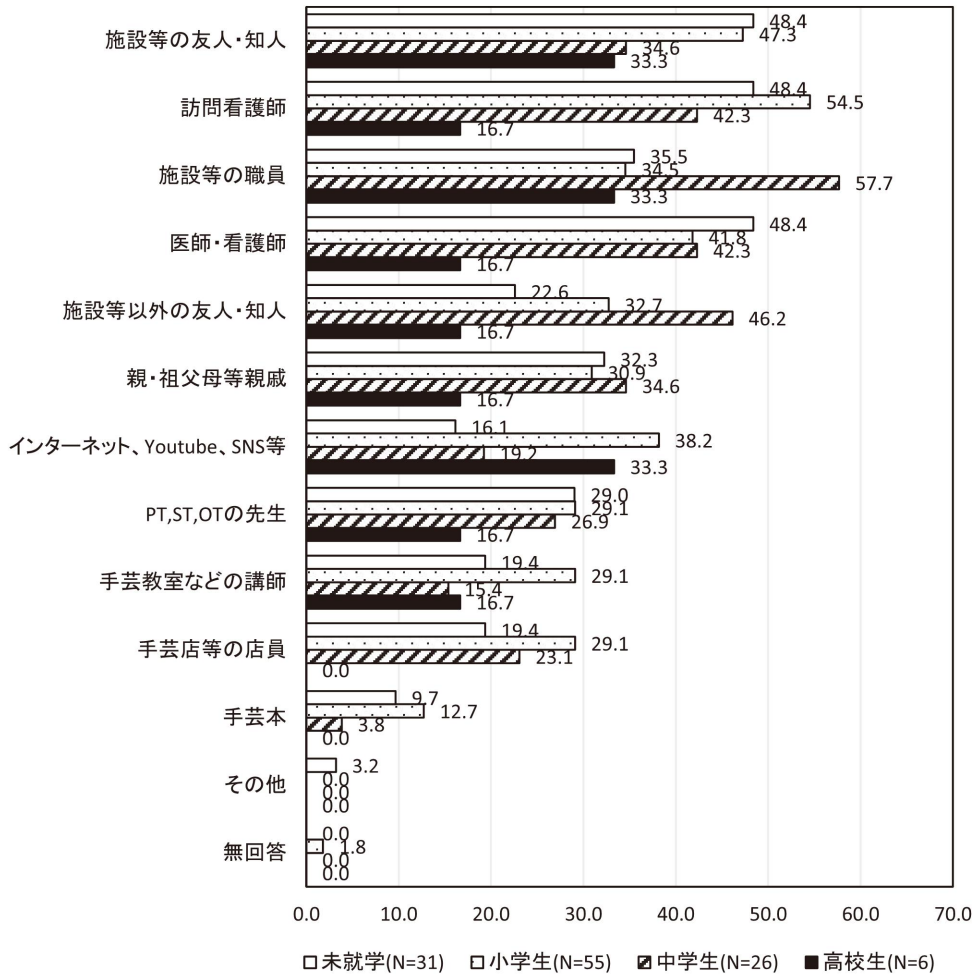


図9 カニューレバンドの作り方を誰から知ったか、作ってもらっているか

子どもが気管切開をしていると答えた全ての人に、カニューレバンドの不満について複数回答で尋ねた結果を表3に示す。カニューレバンドに対する不満については、「価格が高い」が全体で最も高く、未就学、小学生、高校生で一番に挙げられた。中学生は「材質が堅い」を挙げている人が最も多かった。次いで「マジックテープがすぐダメになる」についても全体で4位、小学生と高校生で約3割の人が不満として挙げていた。

又、子どもが「カニューレバンドをはずして困る」に対する回答を図10に示す。未就学、小学生、中学生に「そう思う」「ややそう思う」と答えた人が多く、未就学で約6割、小学生、中学生で約7割の人が困っていることがわかった。高校生ではその割合が3割に減少するが、これ

が年齢区分の上昇によるものなのか、N数が少ないことによる影響なのかはわからなかった。今後、これらの問題点を解消する材料の選定や作り方を検討し、簡単に安く自作できる方法を確立する必要性が高いと考えられる。

表3 カニニューレバンドの不満点

	未就学 (N=58)	小学生 (N=109)	中学生 (N=36)	高校生 (N=10)	全体 (N=213)
価格が高い	41.4	40.4	36.1	50.0	40.4
サイズが合わない	27.6	34.9	36.1	40.0	33.3
材質が堅い	20.7	35.8	38.9	10.0	31.0
マジックテープがすぐダメになる	27.6	31.2	22.2	30.0	28.6
のびる	24.1	27.5	8.3	10.0	22.5
見た目が悪い	17.2	14.7	16.7	20.0	16.0
縮む	24.1	14.7	8.3	0.0	15.5
安全性に不安がある	15.5	14.7	13.9	10.0	14.6
着脱が不便	8.6	16.5	16.7	10.0	14.1
その他	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
不満はない	15.5	10.1	13.9	10.0	12.2

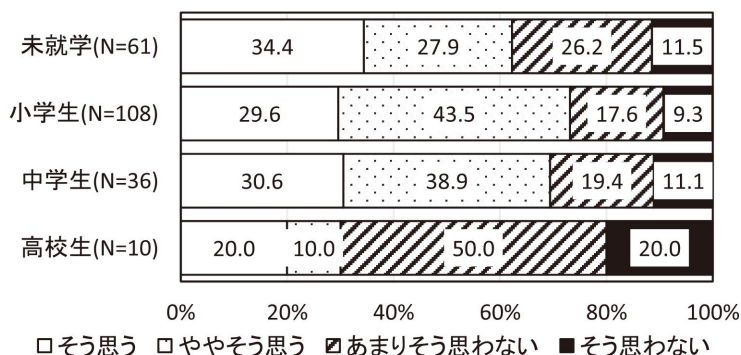


図10 カニニューレバンドをはずして困る

最後に、胃ろうの有無について尋ねた結果を図11に、胃ろうにおいて衣服で困る事について尋ねた結果を表4に示す。示す。胃ろうをしている子どもは未就学、小学生、中学生で3割を超える。高校生では約25%とやや少ない傾向がみられた。これは気管切開と同様の傾向であった。衣服の困りごととしては、「ボディ着用時はズボンまで脱がさなくてはいけない」が年齢区分が低いほど挙げられており、未就学で7割近く、高校生でも約45%であった。高校生でもボディが必要な子どももいることから前開きボディの必要性が認められた。又、胃ろう漏れで衣服が汚れることも全年齢区分で多く挙げられており、全体で6割近くの人が困っていることがわかった。

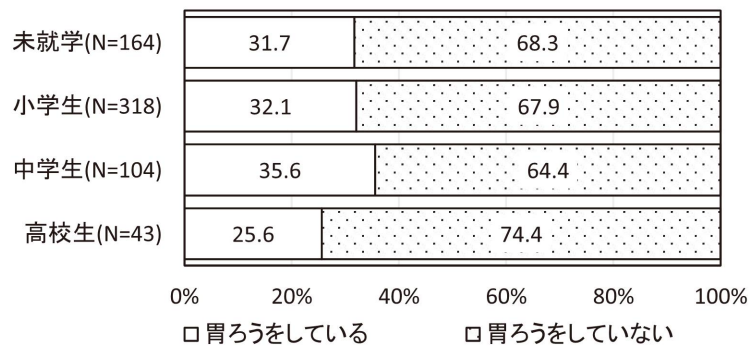


図 11 胃ろうの有無

表 4 胃ろうにおける困りごと

	未就学 (N=52)	小学生 (N=102)	中学生 (N=37)	高校生 (N=11)	全体 (N=202)
ボディ着用時はズボンまで 脱がさなくてはいけない	69.2	64.7	59.5	45.5	63.9
胃ろう漏れで衣服が汚れる	50.0	62.7	62.2	45.5	58.4
前開きや穴あきの衣服に カテーテルなどが引っかかる	36.5	32.4	45.9	9.1	34.7
その他	1.9	1.0	0.0	0.0	1.0
困りごとはない	3.8	0.0	2.7	9.1	2.0

IV ま と め

障がいにより自分での衣服の着脱が難しい子どもの衣服について、全国の 18 歳以下の障がいのあるお子さんをもつ保護者を対象に Web 調査を行った。衣服の問題点やリフォームの実態について、年齢による違いを検討した。結果は以下の通りである。

衣服の問題点として全年齢区分で「障がいにあった衣服が売っていない、売っていても高い」との不満が 6 割を超えており、問題総合点は年齢が高くなると低くなる傾向がみられたが有意差は認められなかった。リフォーム経験は、他の人にやってもらったものも含めて年齢が高いと経験が低いことがわかった。衣服のリフォーム理由は高校生で色柄などについての理由が高い傾向がみられた。衣服について相談したことがある人については高校生で他の年齢区分と異なる挙動を示す傾向がみられた。又、未就学、小学生、中学生の約 3 割、高校生の約 2 割が気管切開、および胃ろうを行っていた。カニューレバンドは年齢が上がるバンドの購入者が減り、自作者が増える傾向がみられた。胃ろうにおける困りごとは「ボディ着用時はズボンまで脱がさなくてはいけない」ことであり、未就学で 7 割近くの人が挙げていたのに対し、年齢が上がるにつれて割合は下がる傾向がみられた。しかし、高校生でも 45% の人が挙げていたことからボディの前開きの必要性が全年齢で認められた。

本研究は令和2年~4年度 JSPS 科学研究費助成事業（基盤研究（C）20K02389）の助成を受けたものである。ここに謝意を表します。

文 献

- 1) 見寺貞子, 田中直人(2005) 身体障害者のための衣服の特性と設計:衣生活に対する意識, 繊維機械学会誌, 58(12), T168-T173.
- 2) 見寺貞子, 田中直人(2006) 身体障害者のための衣服の特性と設計:片麻痺者・対麻痺者の体型の特徴, JText Eng, 52(4), 139-145.
- 3) 多屋淑子, 中村博志(2003) 重症心身障害児の QOL 向上を支援するための衣生活に関する研究, 厚生労働科学研究費補助金, 平成 14 年度総括研究報告書
- 4) 岩波君代(2006)体が不自由な人の衣服リフォームの大切さ, 繊維製品消費科学, 47(5), 272-276.
- 5) 今井素恵(2012)高齢者と若年者の衣服の実態調査から考える衣生活, 岐阜市立女子短期大学研究紀要, 61, 109-116.
- 6) 雙田珠巳 (2011) 肢体不自由児の衣生活支援アクティビティと QOL の向上を目指した衣服の改善, 科研費研究成果報告書, 基盤研究 C 20500672
- 7) 山田由佳子(2020) 肢体不自由児の衣服の問題点とリフォームの実態,生活文化研究, 57, 55-64.
- 8) 山田由佳子(2022)衣服の着脱が困難な子どもの衣服の問題点とリフォームの実態—障がいのある未就学児を対象として—, 生活文化研究, 60, 47-58

The Actual Condition of Reforming and the Problems with Clothing of Children who Have Difficulty

Putting on and Taking off Clothes

— Comparison by age group —

Yukako YAMADA

Division of Health and Safety Sciences Education, Osaka Kyoiku University

Key Words : children with a disabilities , age group, problems with clothing , reforming
